

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>「カブール市およびナンガハル州の児童の学習環境の改善」を目的にこの事業を実施した。学校建設、図書室改善活動を通して、415名が安全で快適な環境で学習できるようになり、32,873人の児童と906人の教員が学校での図書室が利用可能となった。そして、ナンガハル州では、子どもの学校外教育活動を通して、ジャララバード市内の子ども達延べ34,583人が学校外教育へアクセスでき、不就学児童40人が公立小学校1年生と同様のカリキュラムを修了することができた。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 校舎建設活動 教室不足の解消を目的に、カブール市内ゾーン12にある Shams Tabriz 小学校に、教育省建設局の学校建設設計基準に従った1階建て6教室ならびに2室(教員室、図書室)の校舎および水洗トイレ5室1棟(うち1室は障害児用)を建設した。 2月以降、カブール市内教育局建設部や対象校関係者、地域住民代表との調整を行い、3月下旬に着工した。建設作業は設置したサイトエンジニアの主導のもとコミュニティからの協力を得ながら実施し、各工程終了時には当会のエンジニアが住民組織代表と教育局建設部のエンジニアと定期モニタリングを実施し建設プロセスを管理した。モニタリング全工程を予定通り終了、椅子や机などの備品の供与を行った。具体的には各教室に児童用の3人掛け机・椅子を18個と教員用の机・椅子、教材保管用の戸棚を設置した。その後、12月17日に竣工式を実施し、当会職員、学校教員、児童、教育局職員、コミュニティメンバーらが参加した。この竣工式では、建設した校舎をカブール市教育局に譲渡し、学校とコミュニティが協力して学校運営にあたる旨の合意を得ている。</p> <p>(イ) 図書室改善活動 ① 学校図書室の設置 対象校10校に対して、学校図書室の設置を行った。そのうち9校は6月末までに設置が完了した。残り1校は、建設活動対象校であったため、11月の学校備品を供与した際に、図書室となる部屋に机・椅子、棚といった家具と図書を設置した。対象校1校あたり、現地で出版した絵本および紙芝居と日本から郵送した図書10タイトルを含む合計830冊を供与した。</p> <p>② 図書活動についての教員研修 建設事業対象校を除く22校において、「一般教員研修」と「図書室担当教員研修」をそれぞれ2回実施した。一般教員研修は、対象校の17校で実施し、第1回は9校240人が、第2回は10校302人が参加した。内容は図書室の有効な活用法だけでなく、図書を副教材に活用する事例を共有した。図書室担当教員研修では対象校の22校で実施、第1回に10校26人が参加し、第2回に12校32人が参加した。この研修では図書室の運営や図書の貸し出しや管理の方法を取り扱った。 対象校23校のうち、建設対象校1校を除く22校で移動図書館活動を134回、1校あたり約6回行った。この活動では対象地域の教育局指導主事と共に、当会職員が対象校を訪問し、児童に対して読み聞かせを通じた読書の動機づけを行うと同時に図書館の使用状況や貸し出し状況についてのデータを収集した。読み聞かせに参加したのは、延べ5,597人(ナンガハル州3,847人、カブール州1,750人)で、1回あたりの参加者数は65人であった。貸し出し冊数に関して、全対象校で123か月分の貸し出し記録を収集した結果、42,798冊であった。1校あたり348冊であった。</p> <p>(ウ) 子どもの学校外教育活動 ジャララバード市内の子ども図書館を運営し、市内の児童に対して学校外教育の機会を提供した。この子ども図書館は2017年2月から12月末の間、合計220日(月20日)開館し、延べ34,583人が利用しました。1日あたりの利用者数は156人で、そのうち約半分の79人が女子児童であっ</p>

	<p>た。利用者は図書の閲覧だけでなく、絵画教室や工作教室、縫製教室、タラナ（アフガニスタンの詩）の朗詠教室等に参加した。</p> <p>同図書館において、祝日や子どもの誕生日を祝う特別行事を開催した。この特別行事は独立記念日や子どもの日、母の日などの記念日を祝うもので、各回テーマに合わせて子どもたちが寸劇や歌、詩などの発表を行った。また保護者を招待するイベントを2月と6月に実施、それぞれ38人、40人の母親が参加した。その他、防災教室を2月と10月に実施した。月例イベントは合計で9回実施し、参加者は1,494人（うち78人が上記の母親）であった。行事1回あたりの参加者は157人である。</p> <p>8歳から12歳の不就学児童を対象に、4月から12月にかけて特別教室を開講し小学1年生レベルの読み書き、計算といった授業を提供した。ジャララバード市内で学校に行けない40人の子どもたちが参加し、9か月間の教室を修了した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) 校舎建設活動</p> <p>「12クラス415名の児童が安全で快適な教室で学習できている。」</p> <p>建設した6教室には、3人掛けの机・椅子をそれぞれ18個供与している。そのため、6教室で324人（1教室あたり54人）の児童が同時に学習でき、2部制では648人の児童が安全で快適な教室で学習できる見込みである。今後、成果を測るため、新学期開始後（2018年3月下旬以降）のデータを学校長からデータを入手予定である。</p> <p>この活動で見込んでいる成果は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標4-1 初等教育のアクセスと質の改善、4-5 女子、脆弱層の教育格差の改善、4-7ESD（防災教育）の推進、4a 安全で効果的な教育施設の提供 4b 教員研修によってより質の高い教員の増加 に寄与する。</p> <p>(イ) 学校図書館改善活動</p> <p>「対象校23校において、1校あたり月300冊以上の図書が児童に貸し出されている。」</p> <p>モニタリングの結果、1校あたり月348冊（目標比率116%）の図書が貸し出されていた。ナンガハル州の対象校14校では月平均440冊（目標比率147%）の本が貸し出されており、この指標を大きく上回る一方で、カブール州の建設対象校を除く8校では月平均107冊（目標比率37%）に留まった。全体では対象校の64%の学校で指標を達成している。ナンガハルの対象校では研修を受けた教員が、積極的に各学校の図書室運営にあたっており、子どもたちが自由に本にアクセスできる環境が作られていた。活発な活動を展開している教員からは、追加の研修や移動図書館活動を通じたデモンストレーションの要望が挙がっている。カブール州の対象校8校では、図書館運営にあたり以下のような課題が挙がっていることをモニタリングで把握した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館担当職員の不在 <p>対象校8校のうち4校で、同様の問題が見られた。教育省の教育計画では、図書室担当職員への手当を保障、職員の配置を推進しているものの、図書室担当が決まらず、1年を通して職員がボランティアで図書館運営を補助している例や校長が図書館運営をしている例が見られた。このような学校に関しては、教員が図書室の運営まで手が回らず、図書室の開館が不定期であったり、利用されているものの正確に記録が取れていない等の課題が挙がっている。活動レベルで改善策を助言すると同時に、これらの状況を踏まえて、次年度の研修内容を再度検討している。また、図書館担当職員の変更に伴い、図書室の運営がされなくなった例も見られた。担当者の変更があった2校に対しては、研修内容を移動図書館・モニタリング活動時に教授、デモンストレーションを行い、担当教員への意識づけと運営に関する知識のインプットを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書管理の課題

	<p>対象校 8 校のうち、3 校では図書の管理に課題があり、児童が自由に貸し出しできる状態となっていなかった。これらの学校では、図書の紛失や破損が発覚後、校長あるいは担当者が図書館を施錠してしまっていた。これらの学校では、モニタリング時に図書管理が簡単な活動を提案している。具体的には、担当者がいる間だけ図書室を開放することや、教員が図書室から図書を持ち出し、各教室で読み聞かせを行うといった活動から始めている。</p> <p>この活動では、良質な図書へのアクセスを確保することや防災をテーマとした紙芝居の作成と普及、図書室の設置、教員研修を通して、SDGs における 4-1 初等教育のアクセスと質の改善、4-7, ESD（防災教育）の推進、4a 安全で効果的な教育施設の提供、4c 質の高い教員の増加へ寄与する。</p> <p>（ウ）子どもの学校外教育活動</p> <p>①1 日あたり 120 人の児童が学校外教育活動に参加している。</p> <p>事業実施期間を通して、34,583 人が子ども図書館を利用した。1 日あたりの利用者は 156 人であり、この指標を上回っている。</p> <p>この図書館はパキスタンに接するナンガハル州に位置するため、難民帰還が本格化した 7 月以降は帰還民の子どもたちの利用者が急増した。特に学校に行けない子どもの利用や、日中、路上で働く合間に図書館に立ち寄り利用する子どもの姿が見られた。</p> <p>②不就学児童 35 名が教育の機会を得ている。</p> <p>4 月から 12 月の 9 か月間、不就学児を対象に特別教室を開講し、8 歳から 12 歳の子どもたち 40 人が参加し、これを修了した。35 名以上が小学 1 年生レベルの学習内容を習得することができ、指標を上回っている。今後、ナンガハル州教育局が実施するテストに合格すると公立小学校への編入が可能となる。</p> <p>これらの活動を通じた成果は、SDGs4-1「初等教育のアクセスと質の改善」の観点から、40 名の不就学児童が初等教育第一学年と同等の内容を学習でき、学校へ編入することが期待されていること、4-5「女子、脆弱層の教育格差の改善」の観点からは、学校外教育活動に参加した女子児童（年間のべ 17,486 人）のコミュニケーションや意見表明の機会が増加したことが挙げられる。</p>
<p>（４）持続発展性</p>	<p>（ア）校舎建設活動については、建設する校舎と供与する備品はカブール市教育局に譲渡、登録された。校舎の維持管理は学校と市教育局が責任を負う旨を登録証に記載される。また学校教員とコミュニティに対して校舎維持管理研修を実施した。この研修では建物の使い方を説明し、損傷を最小限にとどめ長期に渡り使用できるように促した。</p> <p>（イ）図書室改善活動について、教育省により図書室担当教員の配置が制度化されているものの、図書館担当職員の交代や不在が、児童の読書機会を確保するための課題として挙げられた。今後、学校図書室における児童サービスの認知と理解の向上を目的に、担当教員だけでなく校長や他の教員への働きかけと、教育省へのアドボカシーを随時行っていく必要がある。</p> <p>（ウ）子どもの学校外教育活動は、ナンガハル州の情報文化局が運営する公共図書館で導入されることが期待される。</p> <p>ナンガハル州の図書室担当教員研修はこの子ども図書館で開催されており、参加者が学校図書室での活動が創造できるようなモデルケースとして引用されている。不就学児童のための特別教室では、修了した児童が公立小学校への編入ができるように教育局や保護者への働きかけを行う。</p>